

## 甲状腺機能異常

### 甲状腺機能亢進症（バセドウ病）

バセドウ病は自己免疫疾患のひとつです。下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン（thyroid stimulating hormone：TSH）が甲状腺ろ胞細胞の TSH 受容体を刺激することによって甲状腺ホルモンは分泌されています。バセドウ病は、この TSH 受容体に対する抗体が体内で作られて TSH 受容体を刺激し続け、甲状腺ホルモンが過剰に産生・分泌されることで起こる病気です。TSH 受容体に対する自己抗体が作られる原因は分かっていませんが、バセドウ病になりやすい体質を持っている人が、何らかのウイルス感染や強いストレスや妊娠・出産などをきっかけとして起こるのではないかと考えられています。

### 甲状腺機能低下症

甲状腺機能低下症の原因は、甲状腺でのホルモンの合成と分泌が低下した場合と、甲状腺ホルモンは十分に供給されているのに、標的組織の作用に異常があってホルモン作用が発揮されない場合があります。前者には、甲状腺自体に原因がある場合（原発性甲状腺機能低下症）と、甲状腺自体には異常はないのですが下垂体や視床下部の機能低下が原因の場合（中枢性甲状腺機能低下症）があります。後者は甲状腺ホルモン不応症と呼ばれ、甲状腺ホルモン受容体の先天異常が原因であることが多いです。

#### ①原発性甲状腺機能低下症

原発性甲状腺機能低下症で最も多いのは慢性甲状腺炎（橋本病）です。橋本病は自己免疫疾患の一つで、主な症状は、甲状腺全体の腫れです。大きさはほとんどわからないものから非常に大きいものまでと様々ですが、首の前の部分の不快感や圧迫感を感じることもあります。抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体あるいは抗サイログロブリン抗体といった甲状腺に対する自己抗体が陽性となります。上記のような症状の他に、徐脈、心肥大、うつ状態、アキレス腱反射低下、筋力低下、脱毛（頭髪、眉毛）、皮膚乾燥、過多月経、低体温などが所見としてみとめられます。

また、昆布、ヨード卵、ヨウ素含有咳嗽液などヨウ素（ヨード）過剰摂取によっても甲状腺機能低下症を認めることがあります。他には、甲状腺の術後や放射性ヨード治療後、頭や首に生じた悪性腫瘍やリンパ腫に対する放射線外照射療法後、抗甲状腺薬による治療などの医学的治療後、先天性甲状腺機能低下症、ヨウ素欠乏などがあります。

#### ②中枢性甲状腺機能低下症

中枢性甲状腺機能低下症には、下垂体が原因の下垂体性甲状腺機能低下症と視床下部が原因の視床下部性甲状腺機能低下症があります。中枢性甲状腺機能低下症の原因は、脳腫瘍、脳外傷・やくも膜下出血後（十年以上して発症することも）、脳外科手術後、ラトケのう胞などの脳の病気や、下垂体前葉機能低下症の一症状として起こる場合、自己免疫性下垂体炎などです。

### 当院での対応：

比較的専門性が高い分野であり、当院では糖尿病内分泌内科の先生と一緒に診るケースが多いです。小児の特殊性が高い場合はこども病院の代謝内分泌科や神戸大学の先生と連携します。